

小児在宅移行支援指導者育成試行事業

NICU/GCU退院児とその家族に関わる看護職のための教育プログラム

「小児在宅移行支援指導者育成研修」 の開催について

2017年10月16日

平成29年度医療的ケア児等の地域支援体制構築に関わる担当者会議

公益社団法人 日本看護協会
常任理事 吉川 久美子

本日の内容

- 日本看護協会の概要
- 「小児在宅移行支援指導者育成事業」の概要と開催状況
- 日本訪問看護財団の「医療的ケア児等のコーディネーター養成研修」の開催状況

2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン

いのち・暮らし・尊厳を まもり支える看護



看護の将来ビジョン



■ 人々の生涯にわたり、生活と保健・医療・福祉をつなぐ看護

1. 健やかに生まれ育つことへの支援	・安全で安心な妊娠・出産環境	院内助産・助産外来、緊急時対応、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
	・母子保健体制の構築	障がいを抱えている(抱えることが予測される)母子への支援
2. 健康に暮らすことへの支援	・健康な生活習慣	セルフケア能力の向上
	・保健・医療・福祉資源の活用	地域連携、多職種・多機関との連携・協働、政策力の強化
3. 緊急・重症な状態から回復することへの支援	・患者の回復と「生活の質」の改善	チーム医療、多職種連携、意思決定支援、倫理、安全管理
4. 住み慣れた地域に戻ることに支援	・地域包括ケアシステムの構築	円滑な在宅への移行支援、退院後の生活の調整、多職種・多機関における連携・協働
5. 疾病・障がいとともに暮らすことへの支援	・療養継続のための支援	療養の場における対応、地域連携・支援体制の強化
6. 穏やかに死を迎えることへの支援	・価値観を尊重した意思決定支援	

日本看護協会
「小児在宅移行支援指導者育成事業」の
概要と開催状況

経緯

H27年

現状の把握

「医療機関と訪問看護ステーションにおけるNICU退院後の母子とその家族への支援に関するフォーカスグループインタビュー」の実施

NICU/GCUから退院する児の在宅移行支援について、医療機関と訪問看護ステーションの間で、「ずれ」が生じている

NICU/GCUから退院する児の在宅移行支援について、関わる看護職間の連携等の強化が必要

H28年

検討委員会やWGでの検討
有識者ヒアリング
シンポジウムの開催

○NICU/GCU退院児とその家族への支援に向けた医療機関の役割強化と地域連携の推進

★総合周産期母子医療センター看護管理者合同会議において意見交換

○NICU/GCU退院児とその家族への支援に関する医療機関の役割と訪問看護ステーション等における連携の検討

★標準化した教育プログラムやパスの検討→★指導者育成の課題

○有識者ヒアリング

○シンポジウムの開催

「NICU/GCUから退院する児とその家族への支援を考える」シンポジウム

標準化した小児在宅移行支援パスの明示

標準化した教育プログラムの開発

看護職の小児在宅移行支援能力強化のための指導者研修(案)

H29年

小児在宅移行支援指導者
育成試行事業

小児在宅移行支援指導者育成研修の実施

(6月28日・29日・30日、実習、11月16日・17日)

現状把握

「医療機関と訪問看護ステーションにおけるNICU退院後の母子とその家族への支援に関するフォーカスグループインタビュー」実施

背景

- 周産期医療の進歩により、超低出生体重児や重症新生児の救命率が改善され、医療ケアを持ったまま退院する児が増えている。
- 日本福祉協会（2008）¹⁾によると、在宅療養をしている準・超重症児の推計値は25,000、在宅療養中の準・超重症児のうち、訪問看護を利用しているのは18%と報告している。
- NICU退院後の母子とその家族が、在宅において安全で安心して療養ができる環境を整えるためには、総合周産期母子医療センターと訪問看護ステーションによる円滑な在宅移行支援が課題である。

1) 日本重症児福祉協会2008年

目的

- NICU退院後の母子とその家族への支援について、現状と課題を明らかにし、**円滑な移行支援を具体的に**する。

方法

- 総合周産期母子医療センターと訪問看護ステーションの看護職を対象に、フォーカスグループインタビューを実施

対象施設および対象者

- 総合周産期母子医療センター：NICU退院後の母子とその家族のケアについて先駆的に取り組む4施設のNICUに勤務する看護職各1名
- 訪問看護ステーション：NICU退院後の児の受け入れ体制が整備され、充実したケアを実施している4施設の訪問看護ステーションに勤務する看護職各1名

結果

	医療機関	訪問看護ステーション
連絡時期のずれ	<ul style="list-style-type: none"> 退院2週間前の試験外泊頃に連絡をする 	<ul style="list-style-type: none"> 退院決定後に連絡がくるのは困る 試験外泊等を考慮すると1カ月半前には連絡が欲しい

- 医療機関で行う、退院前カンファレンスのみでは、児の経過、母児の面会、養育者の医療ケア手技の獲得状況、母親の育児観等の情報収集が難しい。

	医療機関	訪問看護ステーション
医療ケアに対する認識のずれ	<ul style="list-style-type: none"> 在宅における医療ケアが十分にイメージできないことによる指導への限界 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅で必要と考える処置や物品は、医療機関と異なることが多い

- 医療ケア手技の獲得と必要物品に関する課題
 - ・ 医療機関の看護職は、児の救命が最優先されるため、在宅をイメージした支援には課題がある。
 - ・ 在宅では、医療機関と違って直ぐに処置ができないため、早め早めに対応することが求められる。そのため、医療機関で指導している処置やそれに伴う必要物品には相違がある
- 機能獲得にむけた適切な支援に関する課題
 - 訓練によって、嚥下機能等を獲得することができる
- 生活リズムに合わせた支援への課題
 - 自宅で2～3時間おきのミルク注入はできないし、母親が夜に眠れるよう調整することが必要である

考察から…

標準化した教育プログラム開発の必要性

平成28年2月8日 厚生労働省医政局地域医療計画課／雇用均等・児童家庭局 母子保健課

平成28年2月24日 厚生労働省医政局看護課

平成28年3月17日 厚生労働省 地域医療計画課 在宅医療推進室・
 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室
 雇用均等・児童家庭局 母子保健課
 医政局 地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室
 医政局 看護課

平成28年度

- 標準化した教育プログラムの開発
- 「NICU/GCUから退院する児とその家族への支援を考えるシンポジウム」の開催（11月3日@秋葉原）

主な体制

●プログラム開発

【WG①】「地域母子保健に関するワーキング」

【WG②】「周産期医療体制推進に関するワーキング」

●シンポジウム開催

健康政策部 助産師課

小児在宅移行支援に関わるパスと教育プログラム

NICU/GCUにおける小児在宅移行支援パスと教育プログラム

NICU/GCUにおける小児在宅移行支援パス						
	児とその家族の危機に対する支援期	在宅支援にむけた方針決定期	児の受容支援（促進）期	在宅にむけた具体的準備期	在宅不安定期（退院後1か月程度）	
児の病態・治療	<input type="checkbox"/> 急性期 <input type="checkbox"/> 子どもの安定、親子関係構築に向けた支援	<input type="checkbox"/> 急性期～回復期（リハビリ検討）	<input type="checkbox"/> 安定期（リハビリ依頼）	<input type="checkbox"/> 安定期	<input type="checkbox"/> 在宅での環境変化に心身の変化がある 次期	
養育者の状況	<input type="checkbox"/> 子どもの病状等のショックや不安 <input type="checkbox"/> 子どもの病状等について不安な時期 <input type="checkbox"/> 子どもに対する自責の念	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後等の受容・希望 <input type="checkbox"/> 母親の乳房製法による不安・戸惑い	<input type="checkbox"/> 子どもの病状や在宅ケアの認識、希望等 <input type="checkbox"/> 在宅ケアに必要な手続き、関係職種との組み合わせに混乱・混乱	<input type="checkbox"/> 在宅に必要な医療的ケアの手技習得 <input type="checkbox"/> 必要時、住居の改善 <input type="checkbox"/> 必要な社会資源活用のために申請手続き <input type="checkbox"/> 小児科病棟、外来看護部との組み合わせ	<input type="checkbox"/> 子どもの支援に対する不安と緊張 <input type="checkbox"/> 孤独と疲労	
関係職種	医師・看護婦・MSW・臨床心理士・保健師等		PT・訪問看護師・相談支援専門員	MSW・PT・PIN・在宅支援関連の職種・（消防署）	PT・OT・PIN	
医療機関	医師	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・治療 <input type="checkbox"/> 子どもの病状・治療について家族への説明	<input type="checkbox"/> 子どもの治療および家族への説明 <input type="checkbox"/> 予測される障害を含めた子どもの成長・発達に関する説明	<input type="checkbox"/> 養育者への在宅意思決定確認 <input type="checkbox"/> 必要な医療用具に関する説明	<input type="checkbox"/> 子どもの状態変化時の対応について家族に説明 <input type="checkbox"/> 通所の必要性について家族に説明	
	退院支援看護師・MSW	<input type="checkbox"/> 児のスクリーニング、家族の情報・経済状況などを含めた情報収集（産科からの情報収集） <input type="checkbox"/> 経済的支援、福祉制度に関する情報提供 <input type="checkbox"/> 院内調整会議とりまとめ（関連職種、目標調整等） <input type="checkbox"/> 保健師（保健センター/保健所）、相談支援専門員への連絡・調整・連携 <input type="checkbox"/> 医師、看護師、臨床心理士等の情報収集	<input type="checkbox"/> 養育者の思い、子育てに関する考え等について関係職種と共有	<input type="checkbox"/> 養育者の在宅意思確認 <input type="checkbox"/> 在宅にむけて、医師・看護師・訪問看護師・保健師等の関連職種と支援内容の共有、方向性の確認。 <input type="checkbox"/> 養育者と訪問看護師の面談 <input type="checkbox"/> 医療用具業者に必要な医療用具等について調整 <input type="checkbox"/> 退院後のイメージ形成 <input type="checkbox"/> 家族の受け入れ状態 <input type="checkbox"/> 代理受診の検討・調整（連携）	<input type="checkbox"/> 必要な支援の明確化、それに伴う医療材料・機器の調整 <input type="checkbox"/> 在宅の環境整備 <input type="checkbox"/> 病院看護職が在宅を訪問し、子どもの療養環境を確認する <input type="checkbox"/> 同じ様な状態にある家族等によるサポート <input type="checkbox"/> 医療用具業者と家族、訪問看護師との打合せ <input type="checkbox"/> 関係部署（小児科病棟、外来看護部）、保健師との連絡・調整	
	看護師・臨床心理士	<input type="checkbox"/> 子どもの治療 <input type="checkbox"/> 母親・家族の面会時の支援、 <input type="checkbox"/> 愛着形成支援 <input type="checkbox"/> 家族の情報収集（キーパーソンの確認） <input type="checkbox"/> 母乳分泌支援 <input type="checkbox"/> NICU環境に関する支援	<input type="checkbox"/> 養育者の思い、考え等への支援 <input type="checkbox"/> 子育て、療育への支援 <input type="checkbox"/> 住居等に関する情報収集 <input type="checkbox"/> 臨床心理士との面談	<input type="checkbox"/> 児の成長・発達について <input type="checkbox"/> 児への直接ケアの参加支援 <input type="checkbox"/> 生活リズムの把握・確認 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーションの説明 <input type="checkbox"/> 居住環境に合わせた支援の明確化および家族の手技獲得にむけた具体化	<input type="checkbox"/> 臨床心理士との面談	<input type="checkbox"/> 在宅にむけた住まいの準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 院内外治、試験外治に向けた準備、養育者への支援
	小児科病棟/外来看護部			<input type="checkbox"/> 家族と訪問看護師、医療機関関係者によるケア会議	<input type="checkbox"/> 転科転棟に向けた準備・情報共有 <input type="checkbox"/> 継続して支援への課題共有	<input type="checkbox"/> 病棟看護職による訪問 <input type="checkbox"/> ケアの確認 <input type="checkbox"/> 承認と励まし <input type="checkbox"/> 家族の不安表出支援 <input type="checkbox"/> 家族の休息 <input type="checkbox"/> 通所・一時預かりの確保
地域在宅支援	医師		<input type="checkbox"/> 退院支援CFの参加	<input type="checkbox"/> ケア会議	<input type="checkbox"/> ケア会議、急変等の医療機関の確保	
	訪問看護師		<input type="checkbox"/> 退院支援CFの参加	<input type="checkbox"/> 在宅に必要な支援の調整 <input type="checkbox"/> ケア会議 <input type="checkbox"/> 防災および災害時の準備・対応	<input type="checkbox"/> 急変時対応への支援・調整	
	<input type="checkbox"/> 社会資源と必要な支援に関する情報収集および支援内容の確認・調整	<input type="checkbox"/> 社会資源と必要な支援の確認、方針の共有	<input type="checkbox"/> 退院支援CFの参加	<input type="checkbox"/> 活用できる資源の確保および情報提供 <input type="checkbox"/> ケア会議 <input type="checkbox"/> 地域における障がいのある子どもへの災害支援	<input type="checkbox"/> 必要時、活用できる資源に関する情報提供 <input type="checkbox"/> 訪問頻度のアセスメント	
小児在宅移行支援に関わる看護職のための教育プログラム						
教育プログラム（経歴年数3年目）	目標となる養育者の状態 <input type="checkbox"/> 子どもとの面会ができる <input type="checkbox"/> 子どもの病状について理解できる <input type="checkbox"/> 子どもへの思いが表出できる	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後について受容できる <input type="checkbox"/> 子どもとの関係性（親子関係）を築いていくことができる <input type="checkbox"/> 退院（在宅）に向けたイメージが持てる	<input type="checkbox"/> 必要な申請手続きが理解でき、準備ができる <input type="checkbox"/> 退院後の生活に関する職種と職種の役割について理解できる <input type="checkbox"/> 退院に向けて家族内調整ができ、家族で児を受け入れる準備ができる <input type="checkbox"/> 子どもの成長・発達への理解（実感）ができる、相談できる、疑問を表出できる	<input type="checkbox"/> 子どもの状態を観察することができる <input type="checkbox"/> 在宅に必要な手技の獲得ができる <input type="checkbox"/> 在宅で子どもの養育をする際の疑問や不安について表出することができる <input type="checkbox"/> 急変時の対応が理解できる <input type="checkbox"/> 防災および災害時の対応が理解・準備できる	<input type="checkbox"/> 社会資源、経済的支援活用の準備ができる <input type="checkbox"/> 退院してから1か月間、他者の支援を受けながら養育することができる <input type="checkbox"/> 家族をはじめ、訪問看護師や保健師等に、子どもの支援や不安等を相談することができる	
	アセスメントの視点	<input type="checkbox"/> 妊娠期の経過 <input type="checkbox"/> 母親の身体的・心理的・社会的状況 <input type="checkbox"/> 家族（キーパーソン）構造と機能 <input type="checkbox"/> 妊娠・出産への思い <input type="checkbox"/> 出産後の身体的変化	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後に関する受止め <input type="checkbox"/> 親子関係（愛着形成）、夫婦関係の構築 <input type="checkbox"/> 在宅にむけた家族の準備状況	<input type="checkbox"/> 養育者の準備状況と理解 <input type="checkbox"/> 養育者の心理的状況 <input type="checkbox"/> 地域・在宅に必要な情報の理解	<input type="checkbox"/> 養育者への支援（エンカレッジ） <input type="checkbox"/> 家族内調整の程度 <input type="checkbox"/> 急変時対応への理解 <input type="checkbox"/> 防災および災害時対応の理解	<input type="checkbox"/> 退院後の支援を評価できる

NICU / GCU退院児とその家族に関わる看護職のための教育プログラムの開発

①有識者ヒアリング

○教育プログラムの枠組み（案）を提示し、関連職種との連携や人材育成の視点についてヒアリング

②地域母子保健に関するWG

○教育プログラムは、NICU/GCUの経験年数5年目前後の看護職に求められる内容の検討

○教育プログラムを開発する中で、**教育プログラムを活用できる人材不足の課題**

○育成研修の対象者は、教育担当者および指導者とし、5日間程度のプログラム検討

③周産期医療体制の推進に関するWG

○小児在宅移行支援に関わる教育担当者および指導者が、“NICU/GCU退院児とその家族に関わる看護職のための教育プログラム(案)”を活用し、自施設の看護職への育成が行えることを目的に、“看護職の小児在宅移行支援能力強化のための指導者研修(案)”を開発

小児在宅移行支援指導者育成 試行事業プログラムの目的と目標

➤ 目的

1. 教育プログラム（案）を試行し、医療機関での導入・活用に向けて精査すること。
2. 試行を通じ、教育プログラムを導入・活用できる人材（指導者）を育成すること。

➤ 目標

1. NICU／GCUから退院する児とその家族を取り巻く現状を理解することができる。
2. 暮らしの場で医療的ケアを必要とする児とその家族が生活することをイメージできる。
3. 医療機関の看護職が担う、医療的ケアを必要とする児と養育者及び家族への支援が理解できる。
4. 教育プログラム（案）を試行し、自施設に系統立てた小児在宅移行支援に関する教育プログラムを導入することができる。

プログラムの特徴

	教授内容
1.対象の理解	<ul style="list-style-type: none">・日本の新生児医療の現状と課題・医療ケアを必要とする子どもの療育者や家族の心理過程
2.社会資源に関する知識	<ul style="list-style-type: none">・保健・医療・福祉制度・療育施設などに関すること
3.家族や他職種との調整や コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・在宅移行支援に携わる関連職種の役割・意思決定支援(コミュニケーションスキル)
4在宅移行支援に伴う倫理的問題 への対応	<ul style="list-style-type: none">・在宅移行支援に関わる倫理的課題・意思決定支援
5子供と家族が生活する場の理解	<ul style="list-style-type: none">・医療的ケアが必要な子どもと家族の生活の場の理解(自宅への同行訪問実習)・医療的ケアが必要な児の退院と家族形成支援(退院後訪問)

小児在宅移行支援指導者育成プログラム の概要と開催状況

- 開催期間 : 6月28日(水)～11月17日(金)
 - ・集合研修 5日間
 - ・訪問看護ステーション研修 1日間
- 対象 : 総合周産期または地域周産期母子医療センターのNICU/GCUに勤務している経験年数5年目以上の看護職(看護師・助産師)
- プログラム : 別紙参照
- 参加者数 : 179名(当日欠席1名)

総合周産期母子医療センター	93施設	156名
地域周産期母子医療センター	17施設	22名
一般病院	1施設	1名
- 参加者職位 : 師長相当職 15.8%、主任・副師長 35.4%、スタッフ 51.1%

日本訪問看護財団
「医療的ケア児等の
コーディネーター養成研修」
開催状況

「医療的ケア児等のコーディネーター」がなぜ必要か

- 子どもは成長発達していく。
- ライフステージ(乳幼児期・幼児期・小学校・中学校・高等学校・卒後・・・)を通じ、途切れなく支援を行っていく必要がある。
- ライフステージ上では、療育、医療・保健・福祉関係機関による支援から教育機関による支援そして社会参加へ向けての支援へと移行していく。
- 子どもには、このような特徴がある中、成長を促し、社会の中で生活していくためには、本人と家族を支え、多職種連携をしながらケアマネジメントし、調整する機能が必要。

「医療的ケア児等のコーディネーター」 に求められる資質と役割

- 医療的ケア児等に関する専門的な知識と経験の蓄積
- 多職種連携を実現するための水平関係（パートナーシップ）の構築力
- 本人中心支援と自立支援を継続していくための家族との信頼関係づくり
- 医療的ケア児等の相談支援業務（基本相談、計画相談、ソーシャルワーク）
- 本人のサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成する相談支援専門員のバックアップ
- 地域に必要な資源等の改善、開発に向けての実践力

公益財団法人 日本訪問看護財団 「医療的ケア児等のコーディネーター 養成研修（4日間）」について

- 特徴** : 1.医療的ケア児等支援者養成研修 2日間
2.医療的ケア児等コーディネーター養成研修 4日間
- 対象** : 1.看護職員、介護職員、リハビリスタッフ、学校関係者、地域事業所等
で医療的ケア児等を支援している者及び今後支援を予定するもの
2.相談支援専門員、保健師、訪問看護師等今後地域でコーディネーターの役割を担う予定のあるもの
- 定員** : 各30人

研修の目的

- 医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴、各疾患によるライフステージや必要な医療的支援をイメージし、地域の医療的現状を把握する。
- 医療的ケア児等のコーディネーターとの地域連携、資源の開発の方法等を理解する。
- 総論等の講義を基に、特に医療的ケア児等の計画作成に重要なポイントを意識し、事例に基づいた計画作成ができる。
- 事例を基に、ニーズの把握、当事者の意向に沿った計画作成、関係機関との調整などができる。

おわりに

□小児等在宅移行支援の推進については、小児の特殊性を考慮し、体制整備が進められている。

- 診療所、訪問看護ステーションの医療スタッフへの研修
- 小児在宅支援コーディネーターの育成
- 医療・福祉・行政・教育との連携
- 普及啓発



各部門・単位では実践されつつあるが、**コーディネート体制**が不十分

□医療的ケアが必要な子どもたちが在宅で生活できるよう、医療施設で働く看護職、在宅領域で働く看護職は、常に連携し、子供・家族の意向に沿い、成長発達を促しあるべき姿を常に考えながら、ケアに当たっていく必要がある。

□日本看護協会の研修プログラムについては、受講が「**退院支援加算3**」の算定要件になるよう、継続して提供していく計画である。

NICU/GCUにおける小児在宅移行支援パスと教育プログラム

NICU/GCUにおける小児在宅移行支援パス							
	児とその家族の危機に対する支援期	在宅支援にむけた方針決定期	児の受容支援（促進）期	在宅にむけた具体的準備期		在宅不安定期（退院後1か月程度）	
児の病態・治療	<input type="checkbox"/> 急性期 (子どもの安定、親子関係構築に向けた支援)	<input type="checkbox"/> 急性期～回復期（リハビリ検討）	<input type="checkbox"/> 安定期（リハビ依頼）	<input type="checkbox"/> 安定期		<input type="checkbox"/> 在宅での環境変化に心身の変化がある次期	
養育者の状況	<input type="checkbox"/> 子どもの病状等のショックや不安 <input type="checkbox"/> 子どもの病状等について不安な時期 <input type="checkbox"/> 子どもに対する自責の念	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後等の受容・希望 <input type="checkbox"/> 母親の乳房緊満による不安・戸惑い	<input type="checkbox"/> 子どもの病状や在宅ケアの認識、希望等 <input type="checkbox"/> 在宅ケアに必要な手続き、関係職種との顔合わせに混乱・混乱	<input type="checkbox"/> 在宅に必要な医療的ケアの手技習得 <input type="checkbox"/> 必要時、住居の改築 <input type="checkbox"/> 必要な社会資源活用のために申請手続 <input type="checkbox"/> 小児科病棟、外来看護師との顔合わせ		<input type="checkbox"/> 子どもの支援に対する不安と緊張 <input type="checkbox"/> 孤独と疲労	
関係職種	医師・看護職・MSW・臨床心理士・保健師等		PT・訪問看護師・相談支援専門員	MSW・PT・PHN・在宅支援関連の職種・(消防署)		PT・OT・PHN	
医療機関	医師	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・治療 <input type="checkbox"/> 子どもの病状・治療について家族への説明	<input type="checkbox"/> 子どもの治療および家族への説明 <input type="checkbox"/> 予測される障害を含めた子どもの成長・発達に関する説明	<input type="checkbox"/> 養育者への在宅意思決定確認 <input type="checkbox"/> 必要な医療用具に関する説明	<input type="checkbox"/> 子どもの状態変化時の対応について家族に説明 <input type="checkbox"/> 通所の必要性について家族に説明	<input type="checkbox"/> 地域医療機関への情報提供書の作成 <input type="checkbox"/> 訪問看護 ST の指示書作成 <input type="checkbox"/> 消防署への連絡	
	退院支援看護師・MSW	<input type="checkbox"/> 児のスクリーニング、家族の情報・経済状況などを含めた情報収集（産科からの情報収集） <input type="checkbox"/> 経済的支援、福祉制度に関する情報提供 <input type="checkbox"/> 院内調整会議とりまとめ（関連職種、日程調整等） <input type="checkbox"/> 保健師（保健センター/保健所）・相談支援専門員への連絡・調整・連携 <input type="checkbox"/> 医師、看護師、臨床心理士等の情報収集	<input type="checkbox"/> 養育者の思い、子育てに関する考え等について関係職種と共有	<input type="checkbox"/> 養育者の在宅意思確認 <input type="checkbox"/> 在宅にむけて、医師・看護師・訪問看護師・保健師等の関連職種と支援内容の共有、方向性の確認、 <input type="checkbox"/> 養育者と訪問看護師の面談 <input type="checkbox"/> 医療用具業者に必要な医療用具等について調整 <input type="checkbox"/> 退院後のイメージ形成 <input type="checkbox"/> 家族の受け入れ状態 <input type="checkbox"/> 代理受診の検討・調整（連携）	<input type="checkbox"/> 必要な支援の明確化、それに伴う医療材料・機器の調整 <input type="checkbox"/> 在宅の環境整備 <input type="checkbox"/> 病院看護職が在宅を訪問し、子どもの療養環境を確認する <input type="checkbox"/> 同じ様な状態にある家族等によるサポート <input type="checkbox"/> 医療用具業者と家族、訪問看護師との打合せ <input type="checkbox"/> 関係部署（小児科病棟、外来看護師）、保健師との連絡・調整	<input type="checkbox"/> 訪問看護 ST の看護師、市町村保健師の連携・協働（IPWの目的を明確化） <input type="checkbox"/> 養育者・訪問看護師・保健師・看護師等と、院内外泊、試験外泊にむけた準備・支援・評価 <input type="checkbox"/> 在宅にむけた住まいの環境整備（退院前家庭訪問） <input type="checkbox"/> 養育者の調整・支援 <input type="checkbox"/> レスパイトの確保	
	看護師・臨床心理士	<input type="checkbox"/> 子どもの治療 <input type="checkbox"/> 母親・家族の面会時の支援、 <input type="checkbox"/> 愛着形成支援 <input type="checkbox"/> 家族の情報収集（キーパーソンの確認） <input type="checkbox"/> 母乳分泌支援 <input type="checkbox"/> NICU 環境に関する支援	<input type="checkbox"/> 養育者の思い、考え等への支援 <input type="checkbox"/> 子育て、療育への支援 <input type="checkbox"/> 住居等に関する情報収集 <input type="checkbox"/> 臨床心理士との面談	<input type="checkbox"/> 児の成長・発達について <input type="checkbox"/> 児への直接ケアの参加支援 <input type="checkbox"/> 生活リズムの把握・確認 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーションの説明 <input type="checkbox"/> 居住環境に合わせた支援の明確化および家族の手技獲得にむけた具体化	<input type="checkbox"/> 臨床心理士との面談	<input type="checkbox"/> 在宅にむけた住まいの準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 院内外泊、試験外泊に向けた準備、養育者への支援	<input type="checkbox"/> 医師・看護師・訪問看護師・保健師等と退院支援に関する評価・共有
	小児科病棟/外来看護師			<input type="checkbox"/> 家族と訪問看護師、医療機関関係者によるケア会議	<input type="checkbox"/> 転科転棟に向けた準備・情報共有 <input type="checkbox"/> 継続して支援への課題共有	<input type="checkbox"/> 家族との顔合わせ、子どもの急変や災害時等の支援に関する情報提供 <input type="checkbox"/> 外来受診の説明（病院、かかりつけ医、訪問看護ステーション）	<input type="checkbox"/> 病院看護職による訪問 <input type="checkbox"/> ケアの確認 <input type="checkbox"/> 承認と励まし <input type="checkbox"/> 家族の不安表出支援 <input type="checkbox"/> 家族の休息 <input type="checkbox"/> 通所・一時預かりの確保
地域生活支援	医師		<input type="checkbox"/> 退院支援 CF の参加	<input type="checkbox"/> ケア会議	<input type="checkbox"/> ケア会議、急変等の医療機関の確保		
	訪問看護師		<input type="checkbox"/> 退院支援 CF の参加	<input type="checkbox"/> 在宅に必要な支援の調整 <input type="checkbox"/> ケア会議 <input type="checkbox"/> 防災および災害時の準備・対応	<input type="checkbox"/> 急変時対応への支援・調整		
	保健師	<input type="checkbox"/> 社会資源と必要な支援に関する情報収集および支援内容の確認・調整	<input type="checkbox"/> 社会資源と必要な支援の確認、方針の共有	<input type="checkbox"/> 退院支援 CF の参加	<input type="checkbox"/> 活用できる資源の確保および情報提供 <input type="checkbox"/> ケア会議 <input type="checkbox"/> 地域における障がいのある子どもへの災害支援	<input type="checkbox"/> 地域の社会資源の情報収集と提供 <input type="checkbox"/> 必要時、活用できる資源に関する情報提供 <input type="checkbox"/> 訪問頻度のアセスメント	
小児在宅移行支援に関わる看護職のための教育プログラム							
教育プログラム（経験年数5年相当）	目標となる養育者の状態	<input type="checkbox"/> 子どもとの面会ができる <input type="checkbox"/> 子どもの病状について理解できる <input type="checkbox"/> 子どもへの思いが表出できる	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後について受容できる <input type="checkbox"/> 子どもとの関係性（親子関係）を築いていくことができる <input type="checkbox"/> 退院（在宅）に向けたイメージが持てる	<input type="checkbox"/> 必要な申請手続きが理解でき、準備ができる <input type="checkbox"/> 退院後の生活に関わる職種と職種の役割について理解できる <input type="checkbox"/> 退院に向けて家族内調整ができ、家族で児を受け入れる準備が出来る <input type="checkbox"/> 子どもの成長・発達への理解（実感）ができる、相談できる、疑問を表出できる	<input type="checkbox"/> 子どもの状態を観察することができる <input type="checkbox"/> 在宅に必要な手技の獲得ができる <input type="checkbox"/> 在宅でこどもの養育をする際の疑問や不安について表出することができる <input type="checkbox"/> 急変時の対応が理解できる <input type="checkbox"/> 防災および災害時の対応が理解・準備できる	<input type="checkbox"/> 社会資源、経済的支援活用の準備ができる	<input type="checkbox"/> 退院してから1か月間、他者の支援を受けながら養育することができる <input type="checkbox"/> 家族をはじめ、訪問看護師や保健師等に、子どもの支援や不安等を相談することができる
	アセスメントの視点	<input type="checkbox"/> 妊娠期の経過 <input type="checkbox"/> 母親の身体的・心理的・社会的状況 <input type="checkbox"/> 家族（キーパーソン）構造と機能 <input type="checkbox"/> 妊娠・出産への思い <input type="checkbox"/> 出産後の身体的変化	<input type="checkbox"/> 子どもの病状・予後に関する受止め <input type="checkbox"/> 親子関係（愛着形成）、夫婦関係の構築 <input type="checkbox"/> 在宅にむけた家族の準備状況	<input type="checkbox"/> 養育者の準備状況と理解 <input type="checkbox"/> 養育者の心理的状況 <input type="checkbox"/> 地域・在宅に必要な情報の理解	<input type="checkbox"/> 養育者への支援（エンカレッジ） <input type="checkbox"/> 家族内調整の程度 <input type="checkbox"/> 急変時対応への理解 <input type="checkbox"/> 防災および災害時対応の理解		<input type="checkbox"/> 退院後の支援を評価できる
	項目	・NICU 入院状況の把握（予期せぬ入院、あるいは MFICU 等に入院し事前情報等） ・児のスクリーニング ・家族背景・社会背景のスクリーニング	・家族の養育力の把握 ・子育てと療育することの違いへの理解	・代理受診の検討 ・関連職種の役割への理解	・養育者に子どもの一般状態に伝えることができる ・子育て、療育の視点をもち養育者に関わることができる	<input type="checkbox"/> 在宅で療養している他のこどもの在宅訪問が必要かどうか <input type="checkbox"/> 母親と家族の健康状態	

小児在宅移行支援 指導者育成試行事業プログラム

受講者 目標

1. NICU/GCU から退院する児とその家族を取り巻く現状を理解することができる
2. 暮らしの場で医療的ケアを必要とする児とその家族が生活することをイメージできる
3. 医療機関の看護職が担う、医療的ケアを必要とする児と養育者及び家族への支援が理解できる
4. 教育プログラム（案）を試行し、自施設に系統立てた小児在宅移行支援に関する教育プログラムを導入することができる

月日	時間	方法	内容	講師名(敬称略)
6月28日 (水)	9:00~9:10		会長挨拶	福井 トシ子 日本看護協会 会長
	9:10~9:30		主旨説明	吉川 久美子 日本看護協会 常任理事
	9:30~10:20		オリエンテーション・アイスブレイク	事務局
	10:20~10:30		休憩	
	10:30~12:00 (90分)	講義	日本の新生児医療の現状と課題 ～NICU から在宅に移行する児の特性と発達支援	田村 正徳 埼玉医科大学総合医療センター 特任教授/総合周産期母子医療センター長
	12:00~13:00		昼食	
	13:00~14:30 (90分)	講義	医療的ケアを必要とする子どもの退院と家族形成支援 ～小児在宅移行支援に関わる関連職種、関連機関の連携と調整	田中 道子 公益財団法人 日本訪問看護財団立 あすか山訪問看護ステーション所長
	14:30~14:40		休憩	
14:40~16:10 (90分)	講義	医療的ケアを必要とする子どもの退院と家族形成支援 ～訪問看護の実際	平原 真紀 ベビーのための訪問看護ステーション ベビーノ 所長	

6月29日 (木)	9:00~10:30 (90分)	講義	医療的ケアを必要とする子どもの受容と療育に関わる家族の心理	坂井 玲奈 葛飾赤十字産院 医療社会事業部 臨床心理士
	10:30~10:40		休憩	
	10:40~12:10 (90分)	報告	医療的ケアを必要とする子どもの養育者や家族の思い	深谷 志保
	12:10~13:10		昼食	
	13:10~14:10 (60分)	講義	小児在宅移行支援に伴う倫理的問題への対応 ～周産期医療に関わる倫理的課題と看護職への期待	仁志田 博司 東京女子医科大学 名誉教授/慈誠会マ タニティーホスピタル(慈誠会病院) 名誉院長
	14:10~14:20		休憩	
14:20~16:20 (120分)	演習 1	小児在宅移行支援に伴う意思決定支援	市川 百香里 公益社団法人岐阜県看護協会 重症心身障がい在宅支援センターみらいコーディネーター /家族支援専門看護師 他ファシリテーター(調整中)	

6月30日 (金)	9:00~10:00 (60分)	講義	小児在宅支援における在宅療養支援診療所の役割	高橋 昭彦 ひばりクリニック院長
	10:00~11:00 (60分)	講義	NICU/GCU から退院する小児在宅移行支援に関する保健・医療・福祉制度 について --医療的ケアを必要とする子どもの社会資源 --療育施設等に関すること	荒木 暁子 日本看護協会 常任理事
	11:00~11:10		休憩	
	11:10~12:10 (60分)	講義	医療的ケアを必要とする子どもの成長発達に応じて必要な保健・医療・ 福祉制度	谷口 由紀子 淑徳大学 看護栄養学部地域看護学領域 /元 医療法人 社団麒麟会 統括マネージャー
	12:10~13:10		昼食	
	13:10~15:10 (120分)	演習 2	日本看護協会版「NICU/GCU における在宅移行支援 教育プログラム (案)」について	谷口 由紀子 淑徳大学 看護栄養学部地域看護学領域 /元 医療法人 社団麒麟会 統括マネージャー
	15:10~15:20		休憩	
	15:20~16:20 (60分)	講義	・地域包括ケアシステム構築と退院支援について -退院支援に関わる診療報酬の変遷 -小児在宅移行支援等に関する診療報酬について	奥田 清子 厚生労働省保険局医療課保険医療企画調査室 課長補佐
16:20~16:30		3日間のまとめ	事務局	

7月1日(土) ～11月15日(水)	実習	・医療的ケアを必要とする子どもの自宅への同行訪問実習(1例以上) -医療的ケアを必要とする子どもと家族が生活する場を理解する -医療的ケアを必要とする子どもと家族へのケアの実際を学ぶ	
-----------------------	----	---	--

11月16日 (木)	9:30~12:30 (180分)	演習 3	同行訪問実習における情報共有会	ファシリテーター
	12:30~13:30		昼食	
	13:30~16:30 (180分)	演習 4	日本看護協会版「NICU/GCU における小児在宅移行支援教育プログラム (案)」の検討 ・「小児在宅移行支援教育プログラム(案)」を試行し、事例検討を基に 意見交換	ファシリテーター

11月17日 (金)	9:30~12:30 (180分)	演習 5	・NICU/GCU における小児在宅移行支援と指導者の役割	ファシリテーター
	12:30~13:30		昼食	
	13:30~15:00 (90分)	演習 5	・全体共有会	ファシリテーター
	15:00~15:30 (30分)		小児在宅移行支援に関わる指導者への期待	福井 トシ子 日本看護協会 会長
	15:30~15:40		休憩	
	15:40~16:10 (30分)		研修修了、修了証の交付	吉川 久美子 日本看護協会 常任理事
	16:10~16:20		閉会のあいさつ	吉川 久美子 日本看護協会 常任理事

※11月16日・17日については、未定、変更あり

平成29年度 公益財団法人 日本訪問看護財団研修

①医療的ケア児等支援者養成研修（2日間）

②医療的ケア児等コーディネーター養成研修（4日間）

※厚生労働省が定める医療的ケア児等支援者及びコーディネーターの要件を満たす養成研修

- 日時：** ①平成29年9月16日（土）・17日（日）の2日間
 ②平成29年9月16日（土）・17日（日）、10月14日（土）・15日（日）の4日間
- 会場：** ①平成29年9月16日・17日：ひめぎんホール第13会議室
 ②平成29年10月14日：ひめぎんホール多目的室、15日：ひめぎんホール第13会議室
 （ひめぎんホール住所：愛媛県松山市道後町2丁目5-1）
- 対象者：** ①看護職員、介護職員、リハビリスタッフ、学校関係者等、地域事業所等で医療的ケア児等を支援している者及び今後支援を予定する者
 ②相談支援専門員、保健師、訪問看護師等、今後地域でコーディネーターの役割を担う予定のある者
- 定員：** ①②各30名 **受講料：** 財団会員・非会員一律 ①5,000円 ②10,000円
- 目的：** ・医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴、各疾患によるライフステージや必要な医療的支援をイメージし、地域の医療的現状を把握する。
 ・医療的ケア児等のコーディネーターとの地域連携、資源の開発の方法等を理解する。
 ・総論等の講義を基に、特に医療的ケア児等の計画作成に重要なポイントを意識し、事例に基づいた計画作成ができる。
 ・事例を基に、ニーズの把握、当事者の意向に沿った計画作成、関係機関との調整などができる。

日程	研修内容	講師等	
9月16日（土） 1日目	9:00～9:20	受付	
	9:15～9:30	●研修オリエンテーション	公益財団法人 日本訪問看護財団
	9:30～10:30	●総論 医療的ケア児等を地域で支えるために 医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質と役割	淑徳大学 看護栄養学部 地域看護学領域 助手 谷口 由紀子 氏
	10:30～12:10	●医療1 障害のある子供の成長と発達の特徴 疾患の特徴 生理 救急時の対応	愛媛県立子ども療育センター 副所長 矢野 喜昭 氏
	12:10～13:10	昼休み	
	13:10～14:10	●支援に必要な概念 ●支援体制整備 支援チーム作りと支援体制整備／支援チームを育てる 支援体制整備事例 医療・福祉・教育の連携 地域の資源開拓・創出方法	淑徳大学 看護栄養学部 地域看護学領域 助手 谷口 由紀子 氏
	14:10～15:40	●医療2 訪問看護のしくみ 日常生活における支援 人工呼吸器を装着している障害児等の支援の実際	日本訪問看護財団立 在宅ケアセンターひなたぼっこ 統括所長 安藤 真知子
	15:40～15:50	休憩	
15:50～17:50	●ライフステージにおける支援 各ライフステージにおける相談支援に必要な視点 NICUからの在宅移行支援 児童期における支援 学童期における支援 成人期における支援 ●医療的ケアに必要性が高い子ども等の特徴及び支援	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護科 母性・小児看護学講座 教授 豊田 ゆかり 氏	

日 程		研 修 内 容	講 師 等
9 月 17 日 (日) 2 日 目	9:00~9:20	受付	
	9:20~12:20	●福祉 支援の基本的枠組み 福祉の制度 遊び・保育 家族支援 虐待	社会福祉法人 全国重症心身障害児（者）を守る会 重症心身障害児療育相談センター 相談支援係長 等々力 寿純 氏
	12:20~13:20	昼食	
	13:20~14:20	●本人・家族の思いの理解 本人・家族の思い	愛媛県重症心身障害児（者）を守る会 会長 岩井 正一 氏
	14:20~14:30	休憩	
	14:30~16:30	①医療的ケア児等支援者養成研修 ●連携 小児在宅医療における多職種連携 連携・協働の必要性	淑徳大学 看護栄養学部 地域看護学領域 助手 谷口 由紀子 氏
14:30~17:30	②医療的ケア児等コーディネーター養成研修 ●本人・家族の思いの理解 意思決定支援 ニーズアセスメント ニーズの把握 ●計画作成のポイント 演習に向けた計画作成のポイント	※別室に移動 松山市障がい者南部地域相談支援センター 相談支援専門員 西村 幸 氏	
10 月 14 日 (土) 3 日 目	9:00~ 9:30	受付	
	9:30~12:30	●演習 計画作成	松山市障がい者南部地域相談支援センター 相談支援専門員 西村 幸 氏
	12:30~13:30	昼休み	
	13:30~17:30	●演習 計画作成	松山市障がい者南部地域相談支援センター 相談支援専門員 西村 幸 氏
10 月 15 日 (日) 4 日 目	9:00~ 9:20	受付	
	9:20~12:20	●演習 事例検討	松山市障がい者南部地域相談支援センター 相談支援専門員 西村 幸 氏
	12:20~13:20	昼休み	
	13:20~17:20	●演習 事例検討	松山市障がい者南部地域相談支援センター 相談支援専門員 西村 幸 氏

注) プログラム等は変更になる場合もございますので、予めご了承ください。

更新日 : 2017/8/15